

鹿伏兎城(牛谷城, 白鷹城) (県指定史跡) (亀山市加太市場)

鹿伏兎城は鈴鹿川一帯を支配した戦国大名関氏六代盛政の四男四郎盛宗によって、天平（1346～70）の頃築かれた。初めは牛谷城と呼ばれたが、鹿伏兎氏七代定好のとき改修して鹿伏兎城と呼ばれるようになった。定好の子定長が、将軍足利義晴に白鷹を献上したことから白鷹城と称されるようになった。その後、天正11年（1583）に9代定義は、豊臣秀吉の軍勢に敗れ、鹿伏兎城を捨てこの地を去った。

『現地説明板より』

山頂には現在も湧井、石垣、土塁などを残し、勇敢な鹿伏兎城戦士が出撃した中世山城の面影をとどめている。

なお、医王山神福寺は応永元年（1394）三代鹿伏兎定俊の建立によるもので、棟札も今に残され。以来鹿伏兎一族の菩提寺とされてきた。（関町教育委員会 現地案内板より）

鹿伏兎城は、JR加太駅の背後の山に築かれている。線路を渡った所に神福寺があり、山門前に石碑と縄張り図付の案内板がある。この神福寺の境内が城主居館と云われている。

